

# 宮田直彦のエリオット波動レポート

## マーケット見通し(短期アップデート) ※8月5日更新

### [日経平均]

【当面の想定レンジ】 27,500～28,460 円

### [NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 32,000～33,300 ドル

### [ナスダック]

【当面の想定レンジ】 12,300～13,400

### [米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 126.000～135.000 円

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

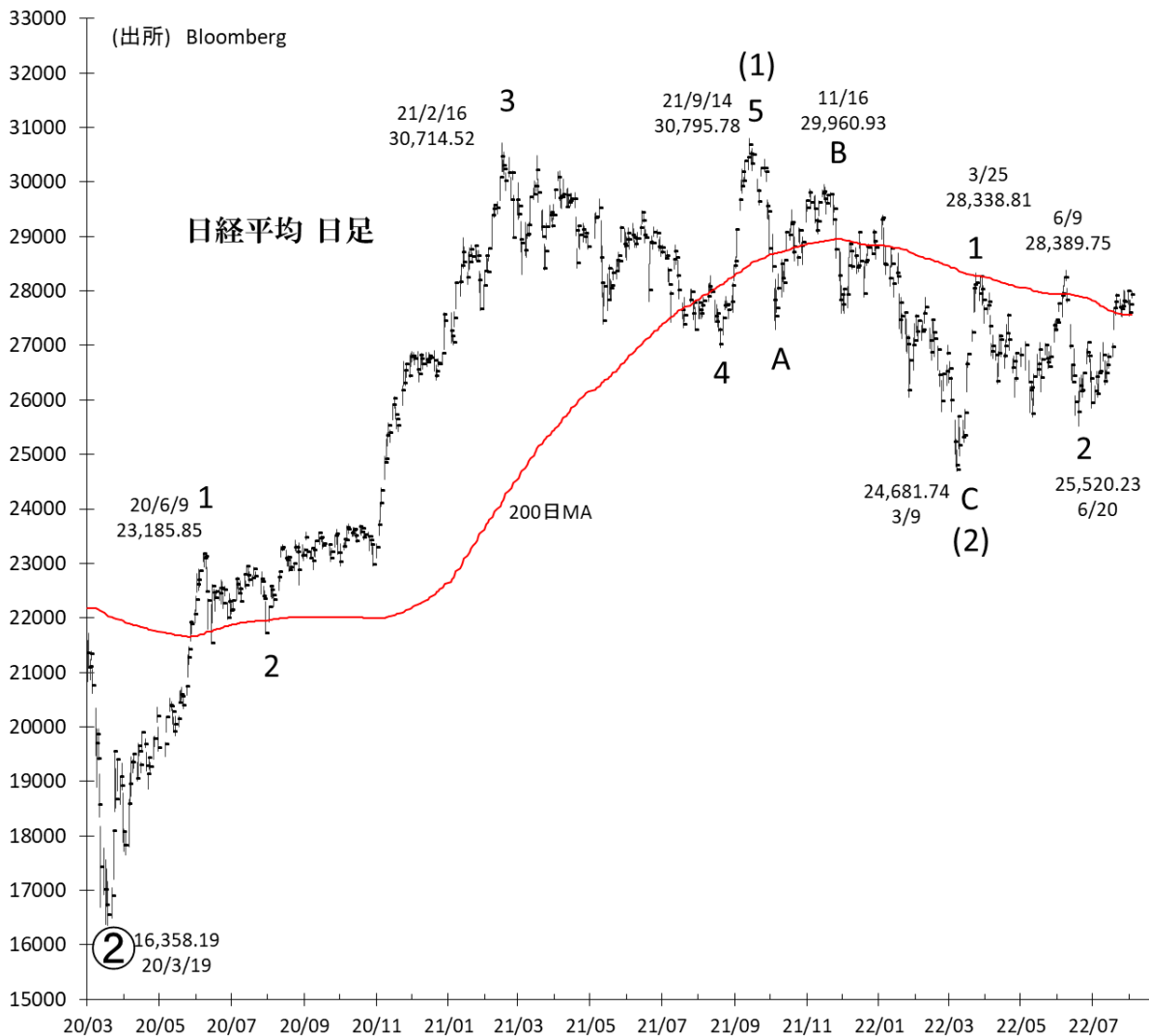
米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均

世界金融危機の底値を付けた 08 年 10 月以降、日経平均はおよそ 4 年周期で底入れしており、現在の相場はコロナショック底(20 年 3 月)を起点とする 4 年サイクルの中にあります。この 4 年サイクルは、二つの 2 年サイクル(2 年+2 年)で構成されており、今年 3 月から後半の 2 年サイクルに入っています。今回、新たな 2 年サイクルは「サード・オブ・サード」と共に始まりました。ここからすると、24 年中に日経平均は過去最高値・38,915 円(ザラバで 38,957 円)を更新してもおかしくありません。



【日足・エリオット波動分析】

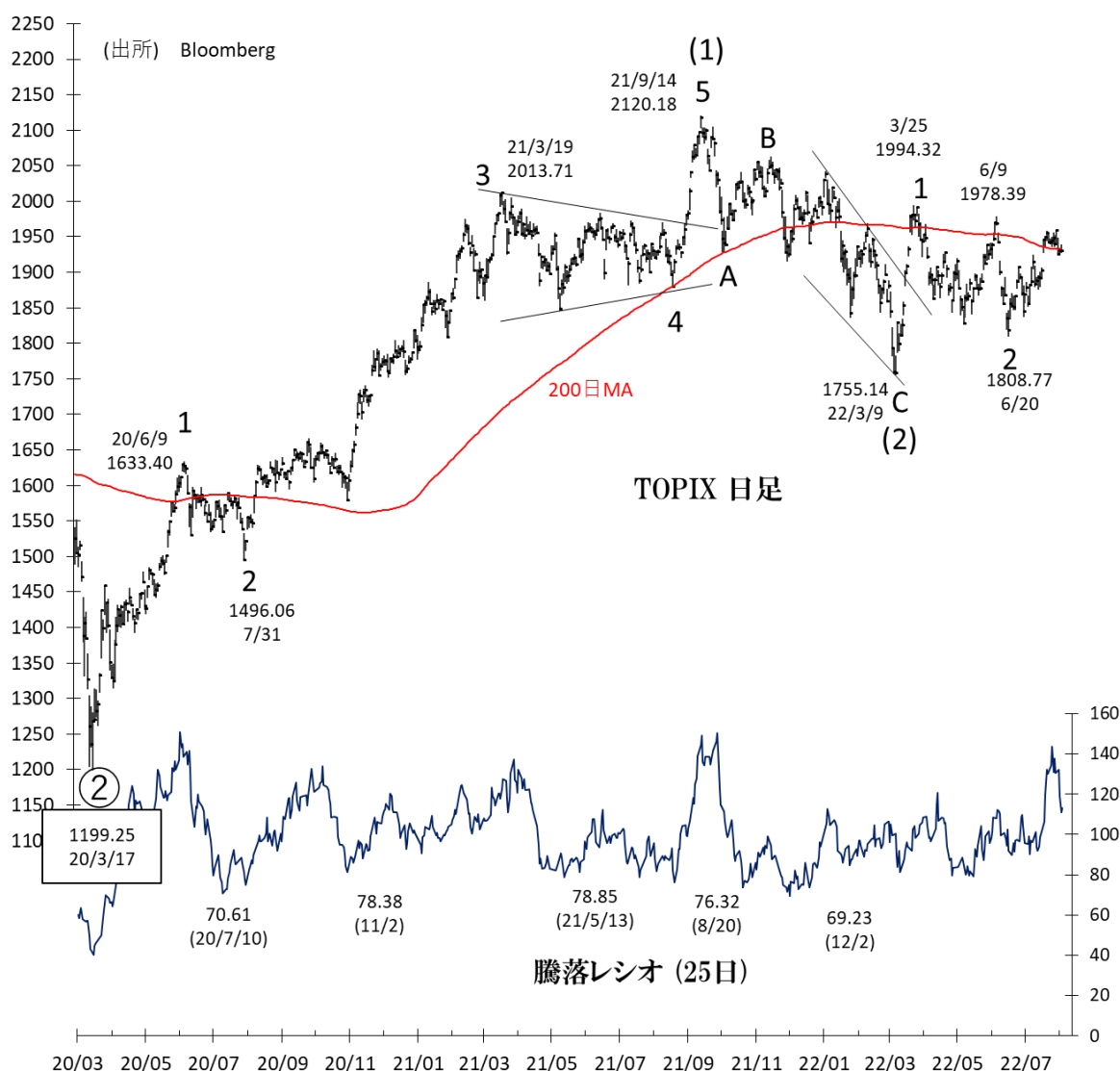
日経平均は昨年 9 月来の調整第(2)波を 24,681 円(3/9 安値)で終了し、そこから第(3)波の上昇トレンドに入った可能性が高いとみています。

さらに 25,520 円(6/20 安値)を起点に、第(3)波の第 3 波「サード・オブ・サード」の上昇が始まった可能性があり、今年後半の株高シナリオが提示されています。

第(2)波安値を付けた 3 月 9 日から約 5 カ月が経ち、信用絶対期日(9 月 9 日)まで 1 カ月を残すのみとなりました。年初来安値からの信用絶対期日(この日はメジャーSQ でもあります)が近づくにつれ、売り方は損失覚悟の買い戻しを迫られるでしょう。例年「夏枯れ」となりやすい 8 月相場ですが、今年に関してはいつもと違う、強い動きを期待できそうです。

日経平均は7月20日以降、200日MAを上回って推移しています。8月2日には日経平均は一時400円超も下げましたが、結果的に200日MA水準で下げ止まり、翌3日と4日は続伸しています。この動きからも、200日MA(27,559円、8/4終値時点)は強いサポートレベルとみてよさそうです。

8月4日の日経平均予想EPSは2185.61円に上昇し、21年11月8日に付けた過去最高水準(2179.25円)を更新しました。市場予想のEPS平均値(2242円)を基準にすると、PER14~15倍まで買われたときの日経平均は3万1400~3万3600円になります。



【時間足・エリオット波動分析】

日経平均は 25,520 円(6/20 安値)からの「アセンディング・トライアングル」(強気パターン)を、マドを空けて上放れました(7/20)。トライアングル上辺(2万7千円処)の突破を契機に、日経平均の上昇が加速しています。

このトライアングル上辺は、今年上半期(1~6月)の日経平均の終値平均(27,021円)に一致しています。そんな重要な節目を上抜けたことにより、今後、日経平均は強基調を強める可能性があります。

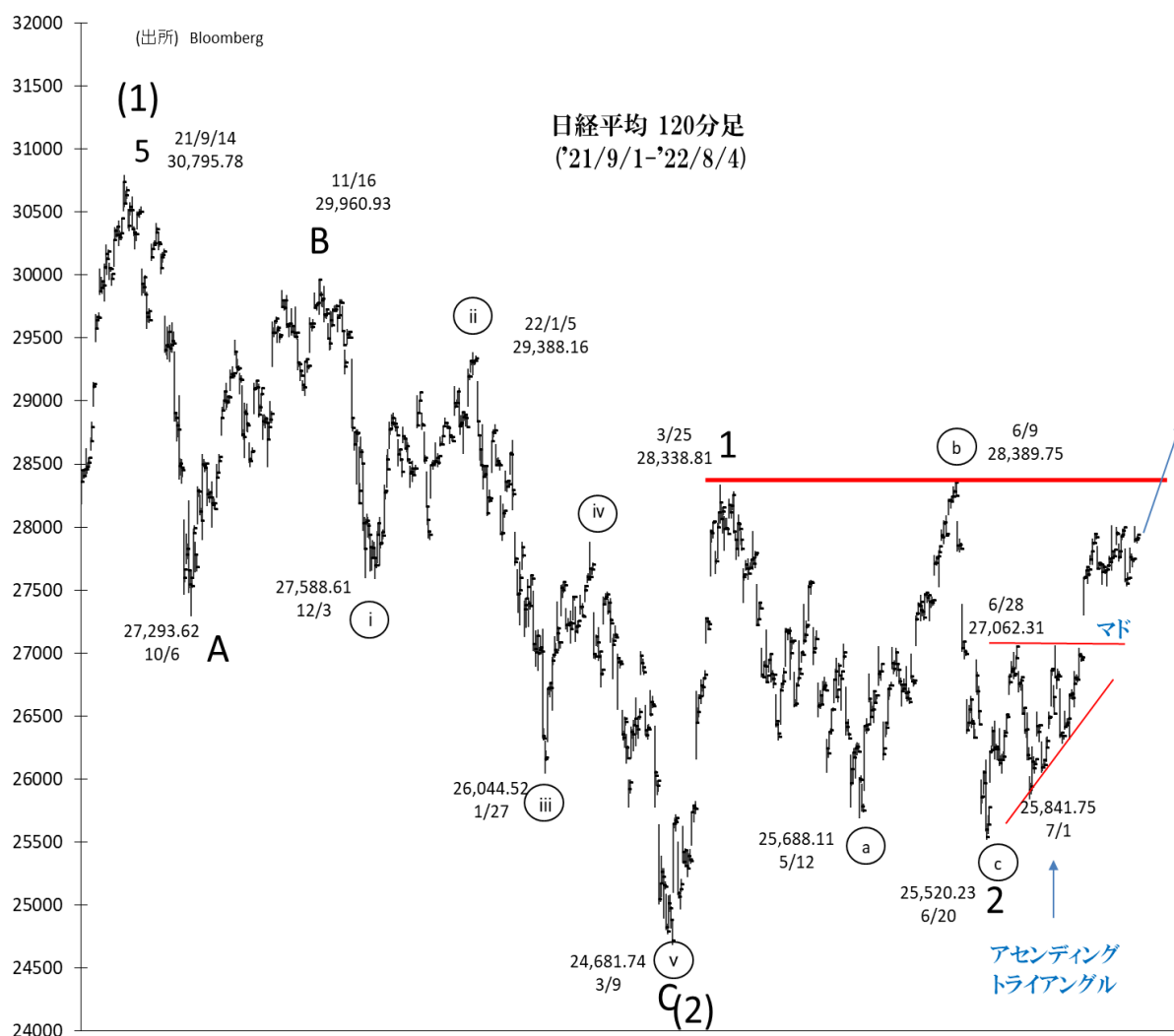
一方、2万7千円未満は今年を通じての買いゾーンとみることができます。

8月1日には日経平均も TOPIX も、約2カ月ぶり高値となりました。短期的にも、6月9日高値の28,389円(TOPIXは1978)を試す可能性が高いでしょう。

そして28,389~28,460円は、今年最大の注目チャート節目=「ポイント・オブ・レコグニション」と思われ、そのブレイクをきっかけに、日経平均は3万円台回復を視野に入れることでしょう。

[28,460円]…21年9月高値からの下げ幅に対する61.8%戻り

【8月5日 8:34 更新】



NYダウ



【NYダウ日足&時間足・エリオット波動分析】

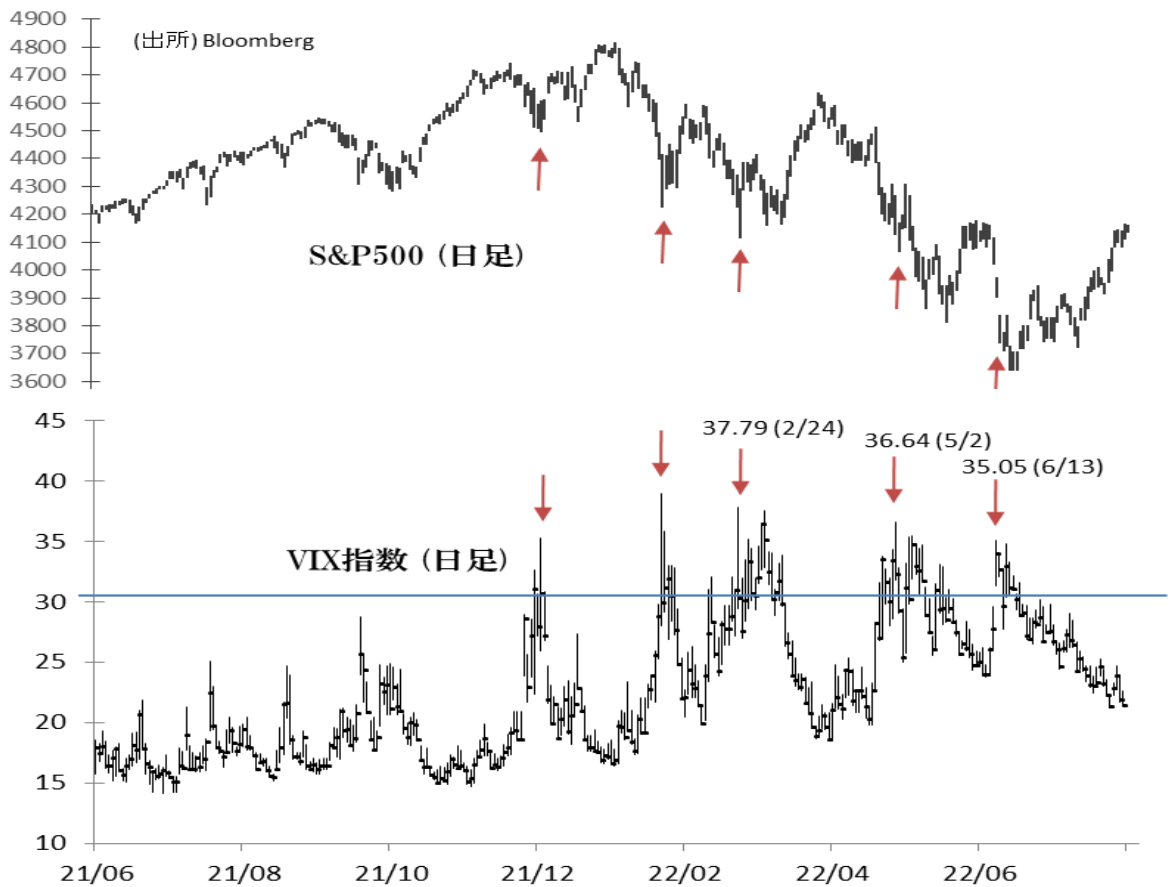
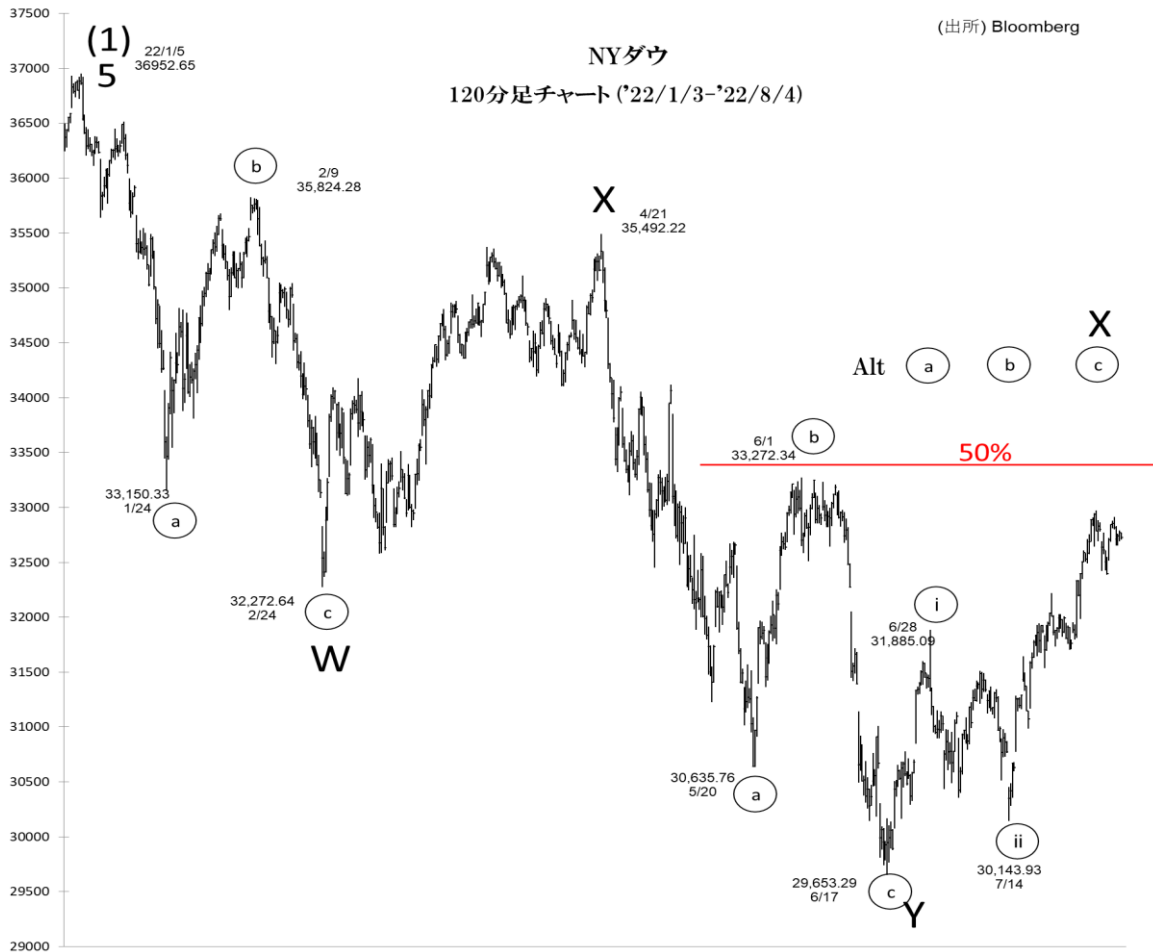
NYダウの1月からの下落には波の重複(オーバーラップ)が目立ちます。オーバーラップが目立つ波動は、衝撃波(impulse waves)ではなく修正波(corrective waves)に分類されます(例外あり)。この見方が正しければ、NYダウの1月高値は「当面の天井」であって、数年にわたるような「大天井」はまだ付けていないことになります。

1月高値(36,952ドル)から「ダブル・ジグザグ」(W-X-Y)による下落は、29,653ドル(6/17安値)を以て終了した可能性がある、とみています。

8月1日、NYダウは一時32,972ドルまで上昇しました。次は33,303ドル(1月からの下落に対する半値戻り水準)を目指すでしょう。

【オルタナティブ・カウント】

1月高値からの下落フォーメーションは、「トリプル・ジグザグ」(W-X-Y-X-Z)。29,653ドル(6/17安値)からはリバウンド・X波に当たります。3万ドル処を割ると、3番目のジグザグZ波(A-B-C)入りが示唆されるでしょう。【8月5日 9:05更新】



ナスダック



2010年9月以降でナスダックは50カ月MAを月末値で下回っていません。ナスダックの2022年前半のパフォーマンスは30%安と非常に厳しいものでしたが、それでも50カ月MA(10,807、8/4現在)を維持しています。

【ナスダック総合指数日足・エリオット波動分析】

6月16日安値(10,565)を以て、21年高値(16,212)からのA-B-Cパターンによる下落が終わった可能性に注目しています。

8月4日には一時12,736と3カ月ぶり高値を更新しました。21年11月高値からの下げ幅に対し、38.2%戻り水準(12,722)を回復したことになります。目先はいったん、上値が重くなることもあるでしょう。

なお6月安値からのネット上昇幅は、8月4日高値までで2171に伸びており、3月14~29日のリバウンド幅(2091)を上回る、最大のカウンター・トレンドとなっています。このことは、ナスダックの上昇が一段と拡大する可能性を高めています。

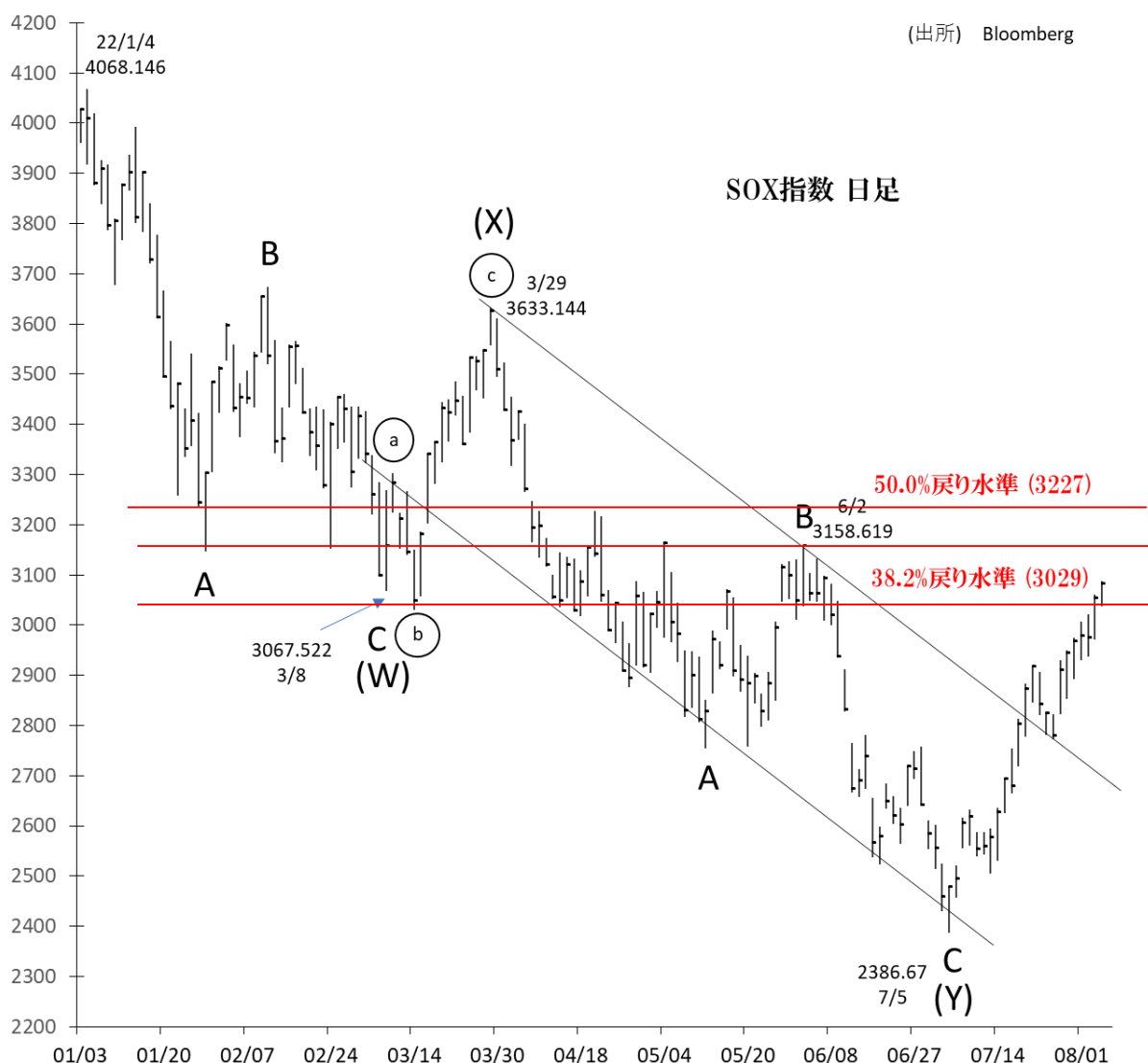
【フィラデルフィア半導体株指数(SOX 指数)】

SOX 指数は、1月4日高値(4068)からの調整を終了したとみています。パターンはダブル・ジグザグ((W)-(X)-(Y))です。

7月安値からの上げ幅は、3030(3/14 安値)から 3633(3/29 高値)までの上げ幅(603ポイント)を凌いでいます。つまり、1月からの下落における最大のカウンター・トレンドが発生しています。また、7月安値から足元までの上昇は、小波動レベルで5波構成となっています。これらは、今後も SOX 指数が一段と上昇する可能性を高めています。

足元では 3029(1月高値からの下落幅に対する 38.2%戻り水準)を上回っており、当面は 3158(6/2 高値) 試しとなりそうです。

【8月5日 9:21 更新】





米ドル/円



22 年上半期の米ドル/円は、22 円幅もの大幅な上昇(米ドル高・円安)を演じ、7 月には 24 年ぶり円安水準を更新しました。筆者が描く理想的なシナリオは、「2023 年 6 月頃に 1 ドル=150~160 円を達成する」というものです。なお(A)波(11 年 10 月→15 年 6 月)と、(C)波(21 年 1 月～)が等しく上がる N 計算値からは、[152.869 円]というターゲットが導かれます。

【月足・エリオット波動分析】

米ドル/円は 102.579 円(21/1/6)を起点とする(C)波の上昇トレンド(米ドル高・円安)にあります。この(C)波は 8 年サイクルに基づき、2023~24 年<sup>注</sup>まで続くと考えられます。

(C)波は 5 波動構成((1)~(5))となりますが、今のところ第(3)波まで終了した可能性があります。

7 月ローソク足は長い上ヒゲを持つ陰線「流れ星」となり、当面の米ドル/円ピークが確認されました。

注 これまでの円安ピッチは、筆者の想定よりも、半年程度速い印象です。  
この点を考慮すると、(C)波の終了の時期も想定より前倒し(22 年末~23 年前半の期間?)になる可能性があります。



### 【日足・エリオット波動分析】

126.354 円(5/24)を起点とする、マイナー級第 5 波「ダイアゴナル・トライアングル」は、139.349 円(7/14)で完成し、現在インターミディエイト級の第(4)波の下落(米ドル安・円高)が進行中とみています。

第(4)波の下値ターゲットレンジは、レッサー・ディグリー第 4 波領域[131.299 円—126.354 円]です。ただし第 5 波のパターンはダイアゴナル・トライアングルですから、第(4)波のターゲットは(控えめにみても)126.354 円(5/24)となります。

ところで、第(2)波(21 年 3 月～9 月)は複雑なもみ合いパターンでした。この点に着目すると、第(4)波のパターンはおそらくは単純な形、ジグザグ(A-B-C)のコースを辿る可能性があります(オルタネーション)。

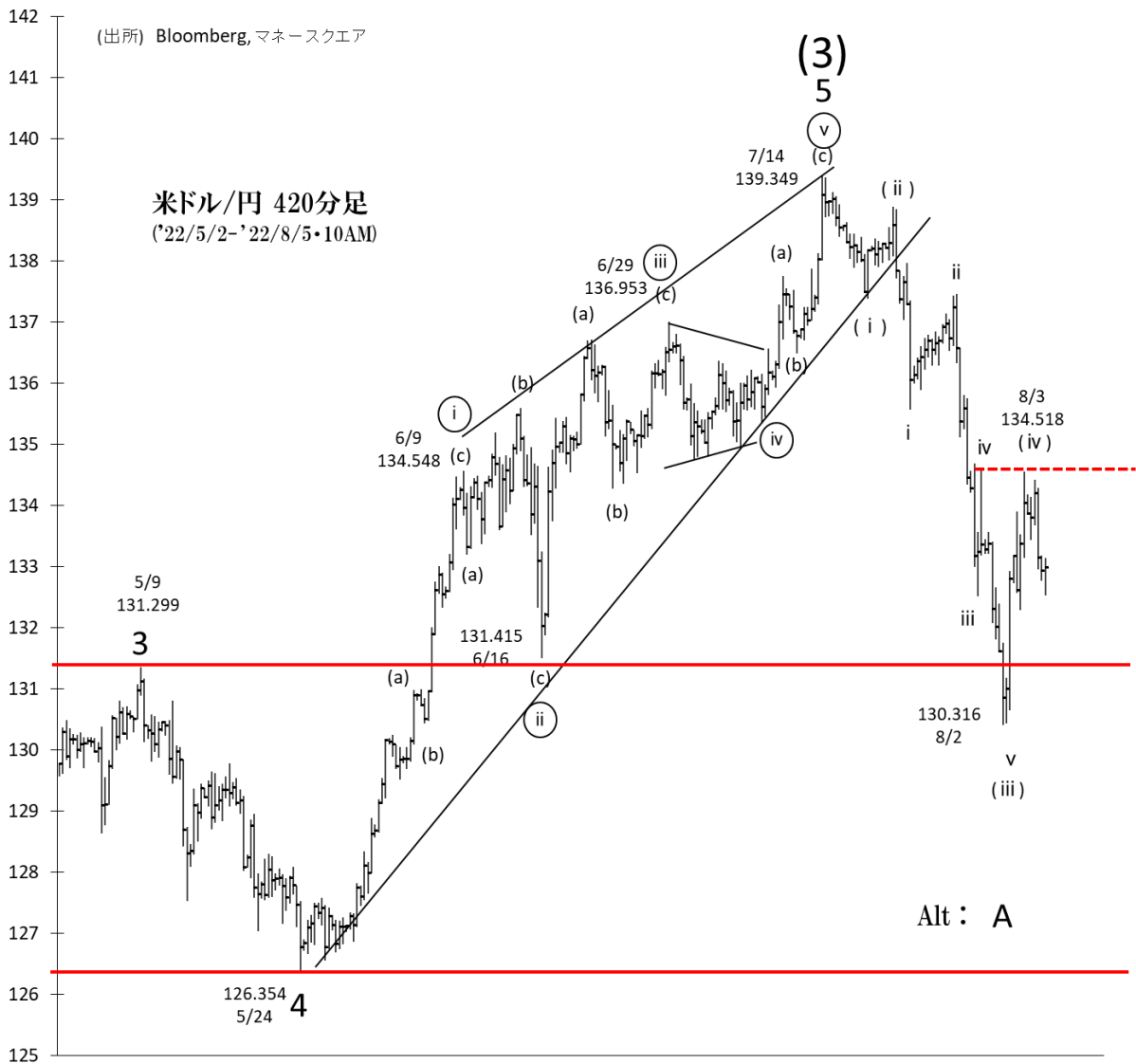
【時間足・エリオット波動分析】

8月2日、米ドル/円は第4波領域[131.299円-126.354円]に一時入り、130円割れの目前で急速に下げ渋る動きとなりました。

もっとも、その後のリバウンドは、134.518円(8/3)を以て終わったかもしれません。それはレツサー・ディグリーiv波・134.590円(7/29)、7月14日-8月2日の米ドル/円下落の半値戻り(134.832円)、これらに近いものです。

この見方が正しければ、短期的にも米ドル/円は、130.316円を下回る動きとなるでしょう。その動きを以て、第(4)波中のA波は完成することでしょう。

【8月5日 9:55 更新】



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

## 当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。また、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引や取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ-100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を取引の額に乗じて得た額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

-----  
金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会  
株式会社マネースクエア

-----